

輪島市大規模火災を踏まえた取組の方向性と主な論点(案)

輪島市大規模火災を踏まえた取組の方向性と主な論点（案）

取組の方向性

I 応援部隊や受入消防本部等の体制強化

- ・悪条件下での進出・活動を可能にするための、車両の小型化、資機材の軽量化
- ・小型車両を含めた先遣部隊の編成、ピストンによる進出
- ・空路・海路での応援部隊及び車両・資機材の投入、関係機関との連携強化
- ・消防の広域化、連携・協力の推進
- ・消防団の充実など地域防災力の強化

II 地震・津波発生時における消防活動

- ・火災の早期覚知、情報収集のためのドローン、高所監視カメラ等の整備促進
- ・消防団詰所等消防施設の耐震化・機能維持
- ・消火活動の省力化、無人化の促進
(無人走行放水ロボット、水幕ノズル、消火用ドローン等の整備)
- ・新技術の導入に向けた研究開発の推進

III 消防水利の確保

- ・耐震性貯水槽の設置促進
- ・無限水利の活用
-海水利用型消防水利システム（スーパーポンパー）等を活用した浸水想定区域外からの遠距離送水計画策定促進
-低水位河川でも使用可能な資機材の整備促進（ディスクストレーナー等）

IV 火災予防対策、防火・防災対策の強化

- ・地震火災対策の推進（特に、感震ブレーカーの普及）

V まちづくり

- ・都市構造の不燃化や密集市街地の整備改善及び住民等の地域防災力の向上に資するソフト対策の引き続きの推進
- ・木造家屋や避難・消防活動上重要な沿道の建築物等の耐震化の促進

引き続き検討が必要な主な論点

II 地震・津波発生時における消防活動

- ・地震時における木造密集地域の火災防御計画について確認・見直しを進めるとともに、策定を推進すべきではないか。
- ・津波の状況に応じた効果的な情報収集のあり方を検討すべきではないか。
- ・津波警報発令下における消防の活動要領について、確認・見直しを行うとともに、消防本部における計画策定を推進すべきではないか。
- ・水利が確保できず活動が困難な中、延焼を防ぐために、どのような方策を検討すべきか（空中消火等）。

IV 火災予防対策、防火・防災対策の強化

- ・感震ブレーカーの更なる普及に向けた方策を検討すべきではないか。